

日刊 動労千葉

85.1.5

No. 1831

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

会科分 意の決意

意気揚々と闘いに 撃つてでよう

乗務員分科会会長 西森 巖

組合員の皆さん、新年あけましておめでとうございます。

昨年来の「六〇・三ダイ改」をはじめとする合理化攻撃との攻防戦は、国鉄労働運動の行く末をかけた闘いとして、新年早々決戦段階を迎えようとしています。

とりわけ「六〇・三」は、動乗勤制度の改悪協定実施として乗務員の大巾削減と、すさまじい労働強化を強制する攻撃であり、絶対に負けられない闘いです。今日、動労「本部」革マルは、「三

事務係10名削減 を許さない

事務分科会会長 大鐘和夫

85年新春を迎え、組合員の皆さんおめでとうございます。

事務分科は、小規模な組織人数ですが、他の分科にも勝るとも劣らぬ団結で85年を闘いぬいていく覚悟であります。

特に、昨年の十一月十五日、当局が提案した「60・3ダイ改」をはじめとし、三年間で10万人以上の首を切る攻撃がかけられています。

「60・3」では千葉局の運転関係で三〇九名（営業一一五）の削減、そのうち事務係10名という数です。

職場で働く労働者を無視した当局の攻撃に対し、動労千葉の皆さん、今こそわれわれは組合員の本

本柱のクリアー」にひきつづき、「六〇・三のクリアー」を率先して叫びたて、際限のない裏切りの道をはき清め、十万人首切り攻撃の先兵としてたち現われています。

わが動労千葉は、いかなる困難な状況をも突破し、国鉄労働者の生活と権利と未来を守りぬくために、全力をあげて闘いぬかなければなりません。

3・25 10・10 三里塚五割動員貫徹した組織力と結合した反合・運転保安闘争の展開により、政府・自民党、国鉄当局の反動攻勢を食い止めてきた「三里塚を闘う労働運動」路線に勝利の確信を深め、意気揚々と闘いにうってでようではありませんか。

乗務員分科会は動労千葉の最先頭で闘いぬく決意を明らかにし新年のごあいさつとします。

当の力を見せようではありませんか。

動乗勤改悪に続いて「三本柱」、そして「60・3ダイ改」とさまざまな問題点が山積しています。まさに闘いの正念場が間近く迫ってきています。組合員一丸となって諸問題をかちとっていきましょう。

85 団結旗開き

一九八五年一月十二日（土）午後一時～
千葉県労働者福祉センター大ホール

第一部 基調報告 午後一時～二時三〇分
第二部 連帯のあいさつとアトラクション
午後二時三〇分～五時

